

シーンⅣ－6 絶滅危惧種(薬用植物)復活プロジェクト事業

事業目的

県レッドデータブック記載の絶滅危惧種等の希少薬用植物種の自生復活に向けた取組をととして、生物多様性の保全を推進するとともに、県内由来の薬用植物の普及を図ります。

事業効果

CO2削減効果	—
その他	—

事業内容

- 1 絶滅危惧種等の育苗・採種 (県薬用植物園)
 - ①ムラサキ:10株→100株
 - ②サジオモダカ:5株→100株
- 2 由来地域調査
 - ①仙台市青葉区定義地区
 - ②県内水田近辺(名取市・七ヶ浜町等)
- 3 由来地の自生復元(大倉ふるさとセンター・名取市)

由来地域環境自生地に播種, 植え戻し

【平成27年度】事業費: 1, 500千円



ムラサキ



サジオモダカ

現状

- 1 ムラサキ

環境省の絶滅危惧種IB類に選定されています。
今から50年前には、仙台市青葉区・泉区の西部山岳地帯にムラサキが自生していました。
種子を採取した「青葉区旧大倉牧場跡地」は、現在樹木類が生長し、生育には不適になっています。
- 2 サジオモダカ

県の準絶滅危惧種に選定されています。
和漢三才図会によると、古く各地に産し、陸前(仙台)産のものを上品とすると記載されており、水田の雑草として県内各地に自生していましたが、近年はまったく見られなくなっていました。

税導入後のイメージ

・生物多様性と生態系の保全

自生の薬用植物について、県民に啓発することにより希少種の保護を推進します。

・県民の健康増進

被災者等を対象にした薬草セミナーにおいても取組を活用し、身近な薬用植物と健康への関心を高めます。

・被災地のまちづくりへの貢献

自生地保護や栽培方法の確立により、「薬草園」計画や耕作放棄地等の活用を推進します。

